# 北九州市観光マップ仕様書

作成：2017年5月30日　更新：2017年6月6日

### ウェブアプリケーションおよびプロジェクト通称名

観光マップ

### 経緯

2016年2月上旬に竹川所長から提案された。

## 要件

北九州市のお勧めできる観光地の情報を集め観光ガイドとしての機能を持つウェブアプリケーションで、観光客の利便性を向上しその呼び込みを図る。画面は北九州市全体の地図上に観光地の位置が分かるように任意のアイコンを表示する。テーマに沿って観光地のリストの候補をフィルタリングし任意のまとまった観光地を選ぶことを可能にし、ボタンのクリックかそれに近い動作でそれを行えるようにする。情報収集および管理はドリームネットシステムズの者のみで行う。

ものづくり北九州企業データベース http://net.kitakyushucci.or.jp/mono-db/　をサイト作製の参考にする。

## プロジェクト前提

### 用語

登録された観光地の候補の中から抽出し、幾つかをまとめた集団を**テーマ**とする。

観光地の情報を表形式で整理した集合データのうち、文脈の中でその中のある一つの観光地のことを指す場合、呼び名を**候補**とする。

### プロジェクトの共有

作製したデータの保管としてGoogleドライブを使う。場所は共有のWebチーム/観光マップ。

グループウェアとしてはサイボウズLiveにこのプロジェクトのToDoがあるので参考にする。

観光マップWebアプリ開発

<https://cybozulive.com/1_219521/gwTask/view?tid=1%3A1852409>

### プロジェクトのフォルダとファイルの概要

root/  
　├ src/

　│　├ web/

　│　└ app/  
　├ 参考資料/

　│　└第一次

　├ package.json

　└ 仕様書.docx

・src/web/

本番環境にアップロードするファイル群を格納する。

・src/app/

Electronによるデータ把握アプリのコードを格納する。

・参考資料/

参考となる資料を置く。

・参考資料/第一次

リメイクする以前のウェブアプリ開発に関する資料

・package.json

開発を促進するためにNode.jsを使う場合のための設定。

・仕様書.docx

この文書。

## 詳細設計

### システム概要

JavaScriptフレームワークとしてVue.js2.xを使用しフロントエンドは一つのHTMLのみで必要な機能を持たせるSingle Page Application（SPA）にする。バックグエンドはデータベースとアプリケーションサーバーを使わず、ある特定のCSVとJSONとHTMLファイルで直接管理する。データの更新は直接にそれらのファイルの編集を行う事で実現し、呼び出しはクライアントから直接それらのファイルをロードする。これらのテキストデータは全てUTF-8でエンコードされたものにする。UIはCSSフレームワークとしてBootstrap3.xを基礎にする。

### 画面仕様の概要

機能を呼び出す部品を一つのページに集約する。対象のUAは一般のパソコンのブラウザに限定する。画面の大まかな区分としてはヘッダー、メニューバー、サイドバー、メイン画面、フッターに分けられる。

ヘッダーではロゴとUI切り替え部品を配置する。

メニューバーではテーマを選ぶUIにし、メニュー項目の種類として大別すると

1. すべてを選ぶ項目
2. 任意のいくつかのテーマの項目
3. その他のテーマの項目

の3つがあり(2)はドロップダウンで個別候補とテーマを選ぶボタンを配置し、(3)はドロップダウンで任意のテーマを選ぶようにする。

メイン画面はいくつかの画面をタブと表示画面で構成する。画面の種類は以下の通り。

全体マップ：北九州市の地図の画像とその上にマッピングされた観光地の位置を表すアイコンとマウスオーバー時にポップアップする観光地名の文字列部分が重ねられた画面

選択地一覧：概要とコンテンツ呼び出しによって詳細記事の表示がされる観光地のリストを表示する画面

サイドバーは検索ボックスとエリア選択などテーマの選択だけではできない絞り込みをする部品を配置する。また、お知らせなどの付加情報を載せる。

フッターはコピーライトなどのアプリの著作に関する情報を載せる。

### 機能仕様の概要

マウスイベントによってテーマとエリアを選ぶことによって内部的にフィルタリングした候補のリストデータを作る。また簡易的な検索によってテーマ選択時のように候補のリストデータも内部的に作る。ある特定の候補を選ぶ場合はその候補がひとつだけあるリストデータを作る。それらリストデータは地図上での配置と概要のリストの表示に使用する。選択地一覧での項目ではもし用意されていれば詳細な解説などを記述した記事を読み込ませ表示する事を可能にする。

### システムデータ**構成**

システムでの主要となるsrc/web以下のフォルダとファイルの配置の概要を示す。また、ファイルとフォルダの解説を行っていく。

root/  
　└ src/

　　　└ web/

　　　　　├api/

　　　　　│ ├entries.csv

　　　　　│ └themes.json

　　　　　├webcontent/

　　　　　├image/

　　　　　│　├icons/

　　　　　│　└photos/

　　　　　├js/

　　　　　│　└main.js

　　　　　├css/

　　　　　│　└main.css

　　　　　├fonts/

　　　　　└ index.html

* + 1. ・src/web/index.html

SPAでのユーザーにURLの誘導からアクセスさせる唯一のHTMLである。

・src/web/main.js

Vue.jsのインスタンス化などのアプリケーションの機能の仕様を実装するための記述をする。

・src/web/main.css

Bootstrapだけではできない全体の配色などを決める。

・src/web/api/entries.csv

このCSVは観光地の情報を管理し、内容は以下のようにする。

|  |  |
| --- | --- |
| **列の名前** | **列の内容** |
| id | 一意の番号 |
| name | 観光地の名前 |
| postcode | 郵便番号 |
| area | 区の名前 |
| address | 区以下の住所 |
| longitude | 経度 |
| latitude | 緯度 |
| tel | 電話番号 |
| site | 本サイト、または参考となるサイトのURL |
| summary | 観光地の概要。簡易検索時に検索結果として現れるために適切にキーワードを盛り込む |
| icon | 全図マップ上に表示するためにsrc/image/icon/にある画像ファイル名を指定する |
| article | コンテンツ呼び出し動作で呼び出されるsrc/web/webcontent/にあるHTMLファイル名を指定する |

・src/web/api/themes.json

観光地はテーマに沿って選ぶテーマとテーマに入る観光地のデータはpikedup、tab、listsキーがありそれぞれの値は任意の型の配列である。

listsの値はテーマの情報を格納する配列。テーマの情報は下記の表のとおり一定のキーと値を入れる。

|  |  |
| --- | --- |
| id | テーマの一意の番号 |
| name | テーマの名前 |
| entries | テーマに属する観光地のidの配列 |

tabの値はメニューバーで表示するテーマのidを表す数字を格納する配列。

pickedupの値はメニューバーの「その他のテーマ」で表示するテーマのidを表す数字を格納する配列。

・src/web/webcontent/

コンテンツの呼び出しボタンから呼び出されるHTML。呼び出し時ではbody要素の直下のarticle要素の子孫ノードがコンテンツとして抽出される。img要素を使う場合、src属性値はそのファイルからの相対パスではなくsrc/web/index.htmlからの相対パスを使う。このHTMLではマークアップの方法については制限を設ける。script,style要素は使ってはならない。

・src/web/image/photos/

選択地一覧の詳細記事用の写真データを格納する。

・src/web/image/icon/

全体マップのアイコン表示用の画像データを格納する。

### 開発と公開と更新の進行

公開時には開発環境にあるsrc/web/のファイル群をそのままFTPで本番環境にコピーする。また更新時も同じ。